

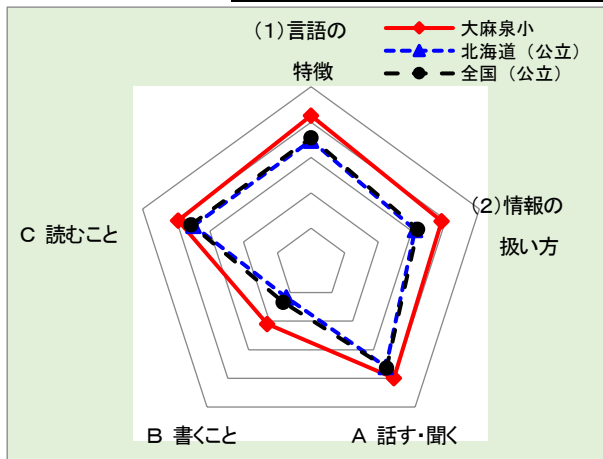
令和5年度 全国学力・学習状況調査結果のお知らせ

江別市立大麻泉小学校 令和5年10月

4月18日に実施した令和5年度全国学力・学習状況調査について、本校の概況をお知らせします。学校では、結果からわかる成果と課題に基づき、今後もすべての教科における「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る授業改善や、家庭・地域との連携に基づく望ましい学習習慣、生活習慣の確立を大切にしていきます。

1. 各教科の調査結果から

(1) 国語の結果 **平均正答率は全国平均を上回っています。**



学習指導要領の内容に照らすと、グラフ項目の(1)・(2)は「知識・技能」、A～Cは「思考力・判断力・表現力」に関する内容です。内容別でも全ての項目で全国平均と同様以上の結果でした。

特に「言語の特徴や使い方に関する事項」で高い正答率でした。「書くこと」に関しては、図表やグラフを用いて、自分の考えが伝えるように書き表し方を工夫する力に課題が見られます。

全体的に無解答が少なく、問題に対して解答を導き出そうとする意欲の高さが読み取れます。

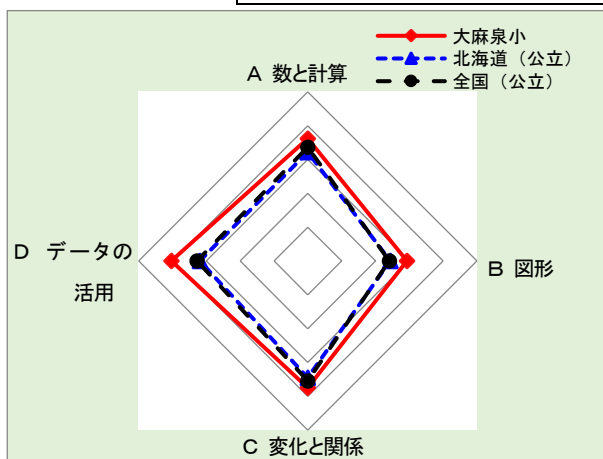
□全国平均と比較してよくできていた問題

- ・文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる問題

■全国平均と比較してやや課題が見られる問題

- ・目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

(2) 算数の結果 **平均正答率は全国平均を上回っています。**



学習指導要領の領域別では「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の全てで全国平均を上回りました。特に「データの活用」では既習事項の学習がしっかり定着していると言える結果でした。

「図形」については、全国平均を上回っているものの、本校の平均正答率は58.6%となっているため、既習事項の定着が課題です。

記述式問題の正答率は、継続してきた学習の成果が現れ、全国平均を大きく上回りました。

□全国平均と比較してよくできていた問題

- ・二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く問題

■全国平均と比較して課題が見られる問題

- ・椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く問題

2. 児童質問紙の調査結果から

(1) 全国平均を上回っている項目で特徴的なもの

項目	R5 結果(%)	全国比
・人が困っているときは、進んで助けていますか	100.0	+8.4
・人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	+4.1
・友達関係に満足していますか	100.0	+9.6
・家で自分で計画を立てて勉強をしていますか	89.4	+18.7
・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	94.8	+18.0
・日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	100.0	+21.9
・5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	97.3	+22.9
・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	97.4	+20.0
・総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	97.4	+22.6
・学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	94.7	+19.0

(2) 全国平均を下回っている項目（以下の2項目のみ）

項目	R5 結果(%)	全国比
・朝食を毎日食べていますか	92.1	-1.8
・毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	89.5	-1.0

3. 今後に向けて

<学習において>

- 課題の解決に向けて自分で考え、話し合う活動を通して自分の考えを深め広げながら振り返り「わかる・楽しい」「考えを深める」授業をめざします。
- ノートを活用し、自分の考えを書く活動を取り入れ、自分の考えを整理して書く力を身に付けさせます。
- 電子黒板・タブレット等のICT機器を効果的に活用し、よりわかりやすい授業づくりに努めます。
- 「主体的・対話的で深い学び」を念頭に置いた、教科毎の資質能力が身につく授業づくりと職員の指導力の向上をめざした職員研修を重ねます。

<生活において>

- 学校における様々な教育活動において、児童一人一人のよさを見取り、認め励ますことで、児童の「自己肯定感」を高めていきます。
- 「いじめは絶対に許さない」という姿勢で指導にあたり、相手の立場に立って物事を考えることのできる児童の育成に努めます。
- めざすべき姿は、将来、社会に出たときにしっかりと“自立”できる人間になることです。今後も、目の前の児童にとって何が必要かを常に考え、全教職員で指導にあたっていきます。